

学校関係者評価報告書

(令和 6 年度)

令和 7 年 4 月

学校法人国際総合学園
JAPAN サッカーカレッジ

1. 学校関係者評価の実施について

令和7年度学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己点検報告書（令和6年度）」について、当校に関係の深い12名の評価委員（委員名簿記載）に評価していただいた。

評価委員には、学校運営状況をまとめた資料を配布し、自己評価報告書の内容について説明した上で意見等をうかがった。

2. 学校関係者評価委員会委員名簿

| 氏名 | 役職名 |
|-------|--|
| 国枝 晴隆 | 一般社団法人新潟県下越地区サッカー協会 理事 |
| 梅山 修 | 株式会社 アルビレックス新潟 アカデミーダイレクター |
| 小出 隆一 | 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ 顧問 |
| 中村 勉 | 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ 学校長 |
| 原 朋洋 | 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ 副校長 |
| 小関 高嗣 | 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ 事務局長 |
| 竹川 昌彦 | 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ 教務部長 |
| 三ヶ月 宏 | 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ マネージャー・トレーナー科 主任 |
| 小川 修平 | 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ サッカー専攻科 主任 |
| 石坂 学 | 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ サッカービジネス科 主任 |
| 須崎 政幸 | 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ コーチ・審判専攻科/サッカーコーチ研究科 主任 |
| 老田 聡孔 | 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ サッカートレーナー専攻科 主任 |

3. 学校関係者評価委員会開催日時・場所

日時：令和7年4月4日(金) 13:00～15:00

場所：JAPAN サッカーカレッジ 1F 会議室

4. 学校関係者評価委員会次第

- (1) 開会
- (2) 国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ顧問 小出 隆一 挨拶
- (3) 学校関係者評価委員紹介
- (4) 学校評価に係る経緯説明

国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ学校長 中村 勉より、「学校関係者評価委員会規定」「組織図」「専修学校における学校評価ガイドライン概要」等の資料に基づき、学校関係者評価委員会の設置された経緯や委員会の位置づけや目的について説明があった。

- (5) 令和 5 年度学校自己評価報告

国際総合学園 JAPAN サッカーカレッジ学校長 中村 勉より、令和 7 年 3 月に作成した「学校自己評価報告書（令和 6 年度）」について、各評価項目における現状、課題と改善策について報告した。あわせて、自己評価の参考資料となる、教職員・学生アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて学校運営の様々な状況について報告した。

- (6) 審議

各評価委員から、自己点検・評価報告に対する意見を頂いた。評価委員の意見等は後述の通り。

- (7) 閉会

5. 次第（6）審議について

学校自己評価報告書の内容を踏まえ、今後の学校運営の改善等について各評価委員より以下のような意見を頂いた。

国枝 晴隆 委員

開校当初から JAPAN サッカーカレッジから各業界へ多数の人材を輩出してくれており、今後も大きな期待を持っている。今後も各業界の動向を分析し、それぞれがどのような人材を必要としているか、それに基づいたカリキュラム・教育内容の構築及び人材の育成が求められる。JAPAN サッカーカレッジからは今後も必然的にサッカー業界への就職が多くなると考えられるが、新潟県のみならず全国各地のサッカー協会、スポーツ関連企業とも連携が重要となってくる。実習やインターンシップを多く取り入れていくことが重要なのではないか。

梅山 修 委員

JAPAN サッカーカレッジからは新潟県のみならず全国のサッカー関連団体（チーム）・企業に卒業生を輩出してくれている。現在の日本におけるサッカー業界をみると、J1、J2 のほかに J3 が発足したことにより、スポンサーを持った、今後 J リーグ入りを目指す地域リーグのチーム数が増えてきている。そういったことを鑑みると、今後はますますサッカー業界における人材は必要とされと考えら

れ、Jリーグチームのみならず多くの可能性のあるチームに、JAPAN サッカーカレッジから人材を輩出し続けてもらいたいと考えている。下部組織のスクールコーチやトレーナー、運営スタッフなど、専門分野のみならず多様性のある人材が求められると考えられる。様々な実習や授業を通して、学生個々の能力を向上させていってほしい。

また、JAPAN サッカーカレッジの卒業生の各方面での活躍は耳にしている。今後も JAPAN サッカーカレッジがサッカー界全体を盛り上げていってくれる存在になってもらいたい。

小出 隆一 委員

JAPAN サッカーカレッジでは「サッカーを通じた人間力の育成」を教育指針としている。

サッカー業界における、選手・トレーナー・コーチ・審判・運営スタッフ・フロントスタッフ・マネージャーなど様々な職種がある中で、それぞれの分野で即戦力となる人材が求められている。岡田委員からもあったように今後は一人何役もこなせるような、多様性のある人材が求められてくる。

また、社会人としてのマナーや一般常識、社会人としての言動・行動が求められてくる。コミュニケーション能力を含め、人間性・社会性についてもさらに養っていく必要があると考えられる。そういった人材を輩出し続けられる学校を目指していきたいと考えている。

中村 勉 委員

技術・技能が高く、知識が豊富な即戦力となる人材が求められていることは言うまでもないが、サッカー業界への就職についてはネットワークの重要性もある。そういった意味でも、現在、サッカー業界に就職している JAPAN サッカーカレッジ卒業生とのつながりも今後ますます重要になってくると考えられる。

JAPAN サッカーカレッジを卒業し、現在全国各地のサッカー業界で活躍している卒業生と連携を取り続けることで、求人情報やインターンシップの情報など様々な情報を得ることができる。また、卒業生が指導しているチームから JAPAN サッカーカレッジに入学してくるという例も増えてきている。毎年開催されている校友会（OB/OG 会）をより充実させ、卒業生同士の繋がりにも一役買えればと考えている。その他、Facebook や Line 等の SNS を活用し、より多くの卒業生とつながりをもっていき、それが在校生の就職に繋がれば素晴らしいサイクルになるのではないかと考えている。

原 朋洋 委員

各委員が仰っていたように、サッカー業界では一つの分野における能力だけでなく、一人で何役もこなせるような多様性ある人材が求められている。大変ありがたいことに、毎年本校には指導者の求人を多くいただいているため、専門分野と同時並行で、指導者としての能力、具体的にはキッズリーダーの資格や日本サッカー協会公認 C 級コーチの資格を取得することで、卒業後の進路を考えた際に選択肢が増えると考えられる。あくまでも学生個人の判断にはなってくるが、教員が学生を見ている中で指導者としての資質のある学生に対しては積極的に促すよう働きかけていきたいと考えている。

また、アルビレックス新潟をはじめ、在学中にプロフェッショナルの現場を目の当たりにする機会は学生にとって非常に貴重な経験だと感じている。今後もインターンシップや授業を通して双方にとってより良い形を作ることができればと考えている。

小関 高嗣 委員

現在、企業においては **Web** サイト（インターネット）による情報発信が非常に重要となっている。ホームページをリニューアル（更新）する頻度を上げるとともに、スマートフォンから閲覧しやすいようなホームページを開設するなどの工夫をしている。

また、学校での授業や実習の様子、試合の結果などを随時更新することで、アクセス回数も増え学校を知ってもらえる機会が増えてきていると感じている。今後も引き続き、**LINE** を活用した学校情報の発信は行っていこうと考えている。入学対象者のニーズにあった情報提供をすることで可能性はさらに広がってくると考えており、サッカー業界の著名人を招いた講演会など、様々なイベントも実施していきたいと考えている。

以 上